

ユニークな
地質系博物館
(18)

滝川市美術自然史館

利光 誠一¹⁾・内田 繁比郎²⁾

滝川市美術自然史館(写真1)は美術館と自然史博物館を合体させたユニークな展示館ですが、広い1階ホールと中2階に自然史部門の展示を備えており、むしろ地質系(化石)を主体とした展示館といえるでしょう。

北海道のほぼ中央に位置する滝川市は海牛化石タキカワカイギュウ(*Hydrodamalis spissa Furusawa*)の産したところとして有名です。海牛類は海生に適応したほ乳類の一群で、現生のジュゴンやマナティなどを含みます。1980年、滝川市内を流れる空知川河床の鮮新世(約500万年前)の地層から久野春治氏により発見された化石骨はその後の迅速な発掘・調査の結果、海牛類の化石であることがわかり、古沢・木村(1982)の報告により“タキカワカイギュウ”として一般に知られるようになりました。そしてこのタキカワカイギュウの調査研究を通じて、滝川市民の間に化石熱が高まり、1986年にこの展示館が設立されました。

当館では、駐車場から正面玄関に至る石畳からすでに展示が始まっています。石畳からわずかに丸い石が突出しており、これはカイギュウの背中を

イメージしています。そして玄関手前には池の中にカイギュウ(レプリカ)が浮かんでいます(写真2)。その反対側にはタキカワカイギュウの産状のレプリカが設置され、子供の遊び場にもなっています(写真3)。

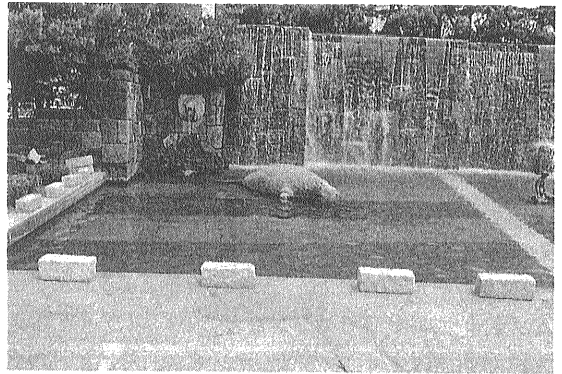


写真2 玄関手前の池の中に浮かぶカイギュウのレプリカ。池の手前の敷石の中に丸くわずかに突出した石が埋められており、カイギュウの背中という設定になっている。



写真1 滝川市美術自然史館の正面玄関。併設されているこども科学館との共通の入口となっている。

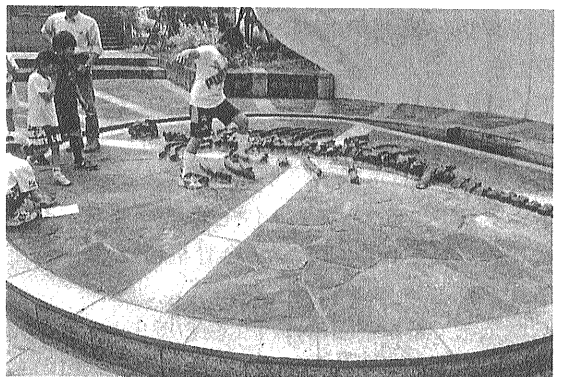


写真3 玄関手前に設置されているタキカワカイギュウの産状レプリカ。触ることもできるため子供たちの格好の遊び場となっている。

1) 地質調査所 地質標本館
2) 北海道岩見沢市お茶の水

キーワード: 北海道, 滝川市美術自然史館, タキカワカイギュウ



写真4 展示ホールに所狭しと並べられた化石脊椎動物の復元骨格模型。写真中央がタキカワカイギウとその産状レプリカ。

館内に入ると、受付を経てタイムトンネルを通ります。ここでは創世期から隠生代(先カンブリア時代)にかけての地球の生い立ちを7枚のカラーコルトンに描かれた絵を見ながら旅をします。そして、タイムトンネルを抜けると大きな展示ホール(顕生代-カンブリア紀以降-の地球)へと旅は続き、多くの古生物の“楽園”を目にすることになるのです。

展示ホールの中には、恐竜(ティラノザウルス、カムプトサウルス、トラコドンなど)、ワニ(フォボスクス)、ほ乳類(オオツノジカ、マンモス、ステラーカイギウ、タキカワカイギウ、アメリカマナティ、デスマスチルスなど)の復元骨格模型が所狭しと並べられており、いきなり圧倒される思いです(写真4)。これらの一部には、肉付けをした10分の1の大きさの生体復元模型が近くに並べられているものもあります。また、カモノハシリュウに関しては皮膚の化石(レプリカ)も展示されており、タキカワカイギウでは産状のレプリカも展示され(写真4)、化石の理解をする上での配慮がうかがえます。なお、ここで展示されているタキカワカイギウの原標本は当館に保管されており、これまで全骨格の75%を超える骨が見つかっています。

展示ホールの壁面には、「生物の歴史」に始まり、「古生代の生物」、「中生代の生物」、「新生代の生物」といった具合にテーマごとにまとめて解説をしています。しかし、ここでもふんだんに標本(多くはレプリカであるが)を展示しています。この中でも、「中生代の生物」のコーナーではプレシオサウルス(長頸竜)の脊椎骨の断面を研磨して、ガラス

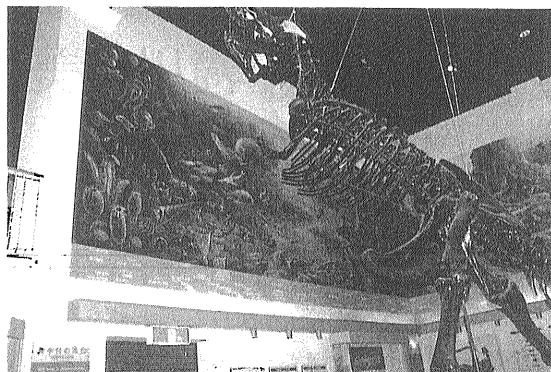


写真5 偉容を誇るティラノザウルスの復元骨格模型と先カンブリア紀からの古生物の生態を描画した大壁画の一部。

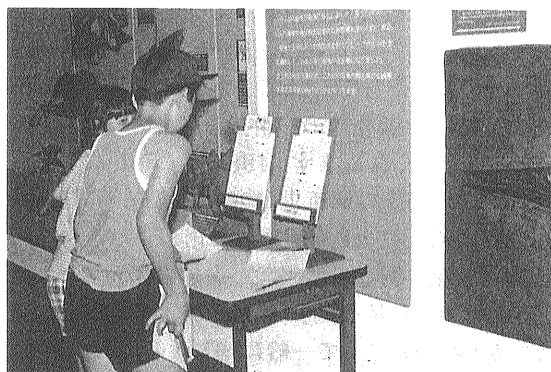


写真6 学習コーナー。4つのテーマについてそれぞれ7つの質問が準備され、クイズに答えながら観察ポイントがわかるように工夫されている。これらの質問に答えると証明カードがもらえる。

ケースに密着させて展示しており、見学者が化石骨の断面を容易に観察できるような工夫がなされています。

壁面の一角には当館の基盤であるタキカワカイギウに関する展示があり、その発掘から復元の様子を示した写真パネルや骨格の復元に必要なテクニックであるレプリカづくりの解説もなされています。

この展示ホールは2階まで吹抜けとなる天井の高いホールですが、壁面の上部を利用して、先カンブリア紀から第四紀までの生物の歴史を長さ40mにも及ぶ大きな壁画として描いており、当館の名前とマッチした展示様式となっています(写真5)。

この展示ホールから中2階へ行くと、現生脊椎動物の骨格標本の展示が見られます。最後に人類の

進化の展示を設け、クロマニヨン人などの化石人類が残した洞窟画の展示を経て、美術部門の展示につながっており、導線がよく考えられています。

この展示ホールの中には4つのテーマについてそれぞれ「7つの質問」と題するコーナーが設けられており、これに答えると“証明カード”がもらえると言った具合に、見学者に飽きさせずに観察のポイントを教えるようになっています(写真6)。

この美術自然史館はこども科学館と併設されており、そのまま続けて見学することも可能です(ただし共通券が必要)。科学館に入ると直径3mの地球儀が設置されており、大陸移動の様子をダイナミックに観察することができるようになっています。この地球儀は東京上野の国立科学博物館の協力を得てつくられたとのこと。

滝川市は恐竜とはあまり縁のない地質体に位置していますが、約500万年前のタキカワカイギュウをもとにして特に脊椎動物化石に焦点をあてた標本(レプリカ)の収集・展示には目を見張るばかりです。併設された滝川市こども科学館とあわせて見れば楽しく科学を学ぶことができるのではないのでしょうか。

滝川市美術自然史館

所在地：〒073-0033

北海道滝川市新町2丁目5-30

電話：0125-23-0502

料金：小学生無料(無料)、中学生240円(300円)、高校生360円(500円)、一般600円(800円)(括弧内はこども科学館との共通券；10人以上は団体割引あり)

開館時間：10:00～17:00

休館日：毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始(12/31～1/5)

参考文献

古沢 仁・木村方一(1982)：滝川市空知川の鮮新統より海牛の化石発見。地質学雑誌, 88, 849-852.

タキカワカイギュウ関連地質調査団(1984)：編)：タキカワカイギュウ調査研究報告書。206p. 滝川市教育委員会・滝川市郷土館。

TOSHIMITSU Seiichi and UCHIDA Shigehiro (1998) : Geological museums in Japan 18, "Takikawa Museum of Art and Natural History".

<受付：1998年3月2日>

